



考え



第十七回 『寄生獣』と「ネットウハ♡」とは何か？ ～前編～

のんびりダサイ
ウマシカの冬。

弦楽器イルカ  + 友人

たまたま深夜に起きたら『寄生獣』のアニメ第一話やってた。ぼんやり観ながらつくづく「原作読み直したい」って衝動に駆られて、早速全巻借りてきた。

ここで今さら俺が『寄生獣』原作についていちいちアレするのも野暮だと思ってネットを漁ってみたんだが、あんまピンとくるレビューがなかったから思い切って書こうと思う。

『寄生獣』は、どこにでもいそうなのんびりダサい人々が徐々に、自覚もないまま後戻りできない酷い「日常」に巻き込まれていく物語だ。登場人物たちはちょっとのんびりしてたりだいぶダサかったりするんだけど、このダサさが実はリアリティを生むとても重要な要素だって、アニメや映画予告編を観て気づいた。（今読むからダサいんじゃないくて、20年前だって充分ダサかったんだよ）

たいていの役者って美男美女ばかりで、あいつらすぐ戦国時代にタイムスリップしたり魂が入れ替わったりして、それは作り物としてありがちで安心する展開だけど全然リアルじゃない。実際にそこらへん歩いている人は特にイケメンでもオシャレでもないし、時空の歪みにハマったり俺がアイツでアイツが俺だったりしない。

どこにでもいる人々の日常が徐々に変容してく様を、お約束のキレイごとをなぞらずに描き切ったからこそ『寄生獣』はこれだけ評価を受けたんだと思う。普通のマンガなら、人喰いの化け物と戦うって同じようなストーリーでも、どんな人喰いの種族がいて、どんな特殊能力があって、それに対抗するのはどんな組織でどんなにカッコいいヒーローかって、一話目からご丁寧に説明しちゃうとこだ。

『寄生獣』はあくまで普通の人々が、「昨日と同じ顔をして、全く別の眼をした日常」に乗っ取られる恐怖を描いてるし、いっそ映画版のコピーもこれにしてほしいくらいだ。俺ごときが突っ込むのは不遜だからあんま言いたくはないんだが、「日常は、ある日とつぜん、食べられた」って、手軽につまめるスナック菓子みたいなジャンクコピーは、おそらく発ガン性あるよ。

原作では寄生生物との戦いは読者を飽きさせないためのスパイスではあるけど、メインテーマは最後まで人間の日常だった。それは新一が物語のラストで誰と対峙するか、からもうかがえる。一方、アニメ化は映画版の宣伝で、その映画版は予告やコピー観る限りじゃ、戦いや寄生生物の奇抜さをメインにした「日本の商業映画」だと感じる。

時代はドンドンわかりやすい事件性やキレイごと重視になってるけど、キャラクターや世界観をデザインする上でダサさにもちゃんと理由があるから、理由なしにオシャレ化しても辻褄が合わない「がっかりオシャレ化」だ。

例えば俺がもし『寄生獣』実写版の予告編作るとしたら、ただのんびりダサいだけの新一と村野が公園を歩いて座るだけのシーンを撮るよ。それでナレーションを付ける。

「日常はどこにもいかない。どれほどの悲しみや苦痛に満ちていようとも、日常はあなたをその渦から逃しはしない。昨日と同じ顔をして、全く別の眼をした日常が.....

この世界には、恐怖と怒りと、愛がある」

そこで新一の右手に目が一個付いてる画面で暗転させる。原作を最後まで読んだら、互いに公園で笑い合える日常がどれほど愛おしいかってことがイヤでも身に染みるから。震災後の今、逆に力を得たような作品だと思う。

あと『進撃の巨人』にも感じるけど、メディアミックスっていう名の砂糖に群がる蟻感がハンパない。マンガとコラボしてなんとか儲けようって大人の鼻息が荒すぎて、原作の原稿が吹き飛ばんじやう勢い。まだ完結してないうちにアニメやら実写化やらCMやら番外編やら外伝やらノベライズやらガイドブックやらグッズやらコンビニくじやら出しまくって、もうオリジナルがどこらへんなのかも俺にはよくわかんない。俺も途中までは面白かったけど、いつまで巨人と戦ってんだって飽きてしまったし。

「すごいけどマンガ」って評価と、「マンガだけどすごい」って評価に分けるとしたら、日常をどう描くかが普通の作品と『寄生獣』の分かれ目だろう。突進してきた車を右手一本で止めちゃうアニメ版の第一話はすごいけど、マンガだった。俺にはがっかりダサかった。

物語に求心力を持たせるために敵との戦いというフィクションを創作する。これはマンガだけの話じゃない。宗教や国家のやり方も一緒だ。今回はこのところを詳しく書きたい。

っと、その前にここで改めて褒め直したいのが、『みんな！エスパーだよ！』が描くダサすぎる日常の描き方だ。どんな酷い事件の最中でも深くバカバカしい人間の業を描くこの作品は、ジョン『ガープの世界』アーヴィングに匹敵すると思う。これこそ事件だよ。

事件は『寄生獣』の映像化で起きてるんじゃない。『みんな！エスパーだよ！』のフルチンの人が公然わいせつ罪って事件を起こしてるんだ！って。

あと、NHKの『55歳からのハローライフ』ドラマ版もリアリティある日常を描いててすごいよかった。二つともドラマ化が蛇足にならなかった貴重な作品だと思う。

さて俺なりに、どうでもいいけどすごくいい宣伝できたな。

前置きが長すぎたので、後編へ続く……



考えるウマシカ～第十七回 『寄生獣』と「ネトウハ♡」とは何か？ 前編～

<http://p.booklog.jp/book/92017>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/92017>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/92017>



電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ